



箱崎から伊都へのキャンパスの移転完了を記念し、九大の百年を超える歴史の中での様々なエピソードを紹介しつつ、その過程で蓄積された学術標本や資料、大学史史料を展示いたします。かつて最先端の研究を生み出した、今後も分野横断的な新しい研究を生み出す可能性を考え、さらなる百年における資料収集のあり方を考えます。

紹介する研究者 (順不同、敬称略)

日本最初のX線発生実験成功：山川健次郎

草創期九州考古学の牽引車：中山平次郎

台湾南洋の有用樹木研究の草分け：金平亮三

日本人起源論の支柱：金関丈夫

アンモナイト学の巨匠：松本達郎

魚類の生活史研究の父：内田恵太郎

日本の鉱物学黎明期の輝きは世紀を越えて：高 壮吉

昆虫学一大研究拠点の父：江崎梯三

鉱山技術史資料蒐集に注いだ情熱：岡田陽一

九州大学の基礎を築いた福岡医科大学初代学長：大森治豊

九大の最も困難な時代の総長：荒川文六

さらに、旧制福岡高校にまつわる品々、九州大学とともに時を重ねた歴史的な家具、キャンパスから出土した九州大学の食器も合わせて展示いたします。

